文学特別展

日常の彼方へ 森内俊雄と徳島

眉山は救いの山である

撮影　宮武健仁

徳島大空襲の際、眉山に逃げ込んで九死に一生を得た体験をつづる「眉山」、鳴門を舞台にした「梨の花咲く町で」などの小説があり、徳島と極めて縁の深い作家・森内俊雄（1936 ～）。日常の奥に潜む孤独と不安、魂の救済といった問題を、鋭敏な感覚で幻想的に描き続けるこの作家の魅力あふれる文学世界を紹介。

2016年 8月11日～9月25日

徳島県立文学書道館

月曜休館（ただし8月15日（月）と9月19日（月）は開館、9月20日（火）は休館）

開館時間　9:30 ～ 17:00

展示解説　8月11日（木・祝）14:00～15:00
講師　富永正志（当館館長）

講演会　8月21日（日）13:30～15:00
講師　森内俊雄（作家）
9月 4 日（日）13:30～15:00
講師　富岡幸一郎（文芸評論家）

テーマ朗読会「森内作品を読む」
9月10日（土）14:00～15:00

観覧料　一般 510円（400円）
高校・大学生 350円（280円）
小・中学生 250円（200円）

※（　）内は20人以上の団体割引料金。小・中・高校生は土・日・祝日・夏休み期間中 無料。65歳以上の方、各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

主催　徳島県立文学書道館
第18回徳島県民文化祭共催事業
後援　徳島新聞社　四国放送

言の葉ミュージアム
徳島県立文学書道館　〒770-0807 徳島市中前川町 2 丁目 22-1　Tel. 088-625-7485　Fax. 088-625-7540　http://www.bungakushodo.jp

詩的で静謐な文体
人生への深い認識

眉山は救いの山である――。

8歳の時に徳島大空襲を体験し、眉山に逃げ込んで九死に一生を得た作家の森内俊雄は、小説「眉山」にそう書いています。生まれは大阪ですが、両親と夫人が徳島出身ということもあって、「私の本当の郷里は徳島である」とも書いています。

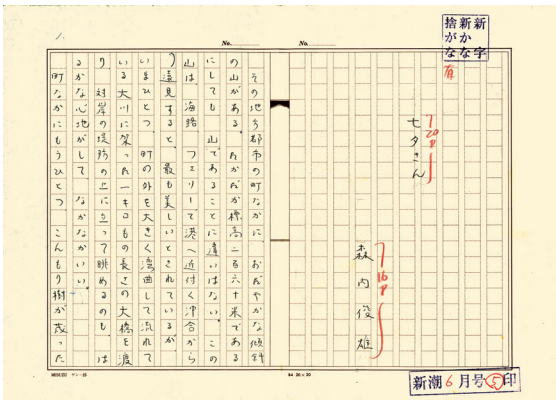
文学特別展「日常の彼方へ　森内俊雄と徳島」では、そうした徳島との深い関わりを中心に、川端康成らに絶賛された森内文学の全貌を紹介します。

「私は分っていることを書こうとは思わない」という森内俊雄。鋭く繊細な感覚が捉えた人間や人生への深い認識を、詩的で静謐（せいひつ）な文体で描いた数々の小説を通して、他の作家とは異なる独自の世界を切り開いてきました。そこには、カトリックの作家らしく、希望の光がほのかに差し込むのも感じ取れます。

そんな森内文学の魅力を本展で味わっていただければ幸いです。

早稲田大学ロシア文学科の同級生で、卒業後12年ぶりに再会した（左から）作家の李恢成、宮原昭夫、森内俊雄（1973年、同大キャンパスで）

写真提供　文藝春秋



徳島を舞台にした短編小説「七夕さん」の直筆原稿
眉山や城山、吉野川、阿波踊りなどが登場する

小学校入学当時の森内少年
この2年後に徳島大空襲に遭い、燃え盛る火の中、眉山に逃げ込んだ

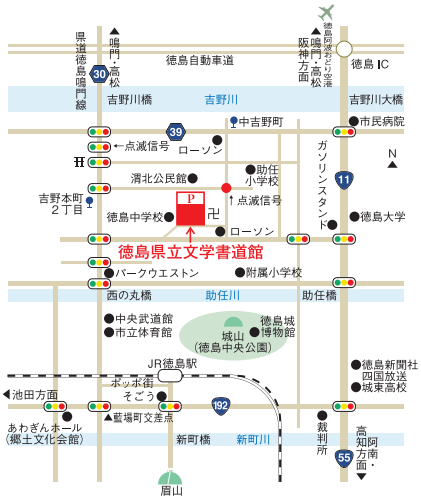
「踊」の文字を木版で刷った森内俊雄の年賀状

森内俊雄（もりうち・としお）　1936年、大阪生まれ。早稲田大学文学部ロシア文学科卒業後、出版社に勤めながら詩や小説を書き、69年、「幼き者は驢馬に乗って」で文学界新人賞を受賞。芥川賞候補にもなり、川端康成に絶賛された。73年、『翔ぶ影』で泉鏡花賞。同年、「眉山」を発表し、5度目の芥川賞候補に。91年、『氷河が来るまでに』で読売文学賞と芸術選奨文部大臣賞。他の著書に『骨川に行く』『骨の火』『短篇歳時記』『真名仮名の記』、鳴門を舞台にした『梨の花咲く町で』など。東京在住。

◆徳島は丁度すだちがみのりはじめるころである。
それはこの土地の、健康な夏の少女のような果実だった。（「眉山」）

◆私が小説においてもエッセイにおいても常に忘れずにいたいと思っていることは、見えるものを通して、見えないものを望み見ることだった。（『灰色の鳥』あとがき）

◆このまま生きていて、よろしい。恐れるものは何もない。
自由自在、ゆっくりと呼吸して、この一日を尊いものにしよう。（「十一月の少女」）



講演会（8月21日／9月4日）申込方法

●往復ハガキ（1人1枚）に、「森内俊雄展 講演会（希望日を明記）」、郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号をご記入の上、郵送してください。当館受付でもお申し込みいただけます。両日とも入場無料です。

●展示解説（8月11日）とテーマ朗読会（9月10日）は申込不要です。ただし展示解説は観覧券が必要です。

交通アクセス（JR徳島駅から）

■徒歩　約15分
JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越えて、3つ目の信号交差点を右折して約300m。

■バス
徳島市営バス　7番乗り場「川内循環線（右回り）」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。
徳島バス　2番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。

■自動車　約5分
国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を渡り、4つ目の信号を右折して約300m。
当館北側に駐車場があります。